

非核平和友好都市宣言推進事業

令和5年度 広島平和記念式典

参加報告書



令和5年度中学生代表 原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを背に撮影

上越市

## 発行に当たって

上越市は、戦後 50 年の節目に当たる平成 7 年に非核平和友好都市を宣言し、豊かな自然と長い歴史に培われた美しい郷土を末永く守るため、核兵器を廃絶し、世界の恒久平和に向け、たゆみない努力を続けることを誓いました。

以来、この宣言の趣旨を普及・啓発するため、毎年 8 月 6 日に行われる広島平和記念式典への参加のほか、平和展の開催や戦争体験談集の発行など様々な事業に取り組んでいます。

令和 5 年度は市内中学校 24 校の代表生徒が、広島平和記念式典への参列、平和の集い及び上越市教育コラボ 2023 学び愛フェスタに参加し、派遣報告や平和の誓いを述べました。

この冊子は、広島平和記念式典に参加し、犠牲者に鎮魂の祈りを捧げ、平和の尊さを直に体験されたみなさんの現地での活動内容や感じたこと、伝えたいことなどまとめたものです。

本冊子が平和について考える一助となれば幸いです。

令和 5 年 11 月

上 越 市



# 目 次

事業の日程	1
活動レポート	
・ 事前説明会	2
・ 出発式	3
・ 袋町小学校平和資料館	
城北中学校 3年 布施 コナ	4
城東中学校 3年 丸田 翔和	5
・ 広島平和記念資料館	
城西中学校 3年 平原 董	6
雄志中学校 3年 小日向遼馬	7
・ 平和記念公園	
八千浦中学校 3年 横山 春人	8
春日中学校 3年 伊藤 寧々	9
・ 平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）	
浦川原中学校 3年 井部 柚花	10
大島中学校 3年 吉野 陽向	11
・ 献花・献水慰霊式	
柿崎中学校 3年 山賀 陽太	12
大瀨町中学校 3年 草間 隼颯	13
・ 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）	
頸城中学校 3年 大瀧ほの香	14
吉川中学校 3年 竹田 梨紗	15
・ 灯ろう流し	
中郷中学校 3年 川久保 駿	16
上越教育大学附属中学校 3年 坂上 奏子	17
・ 原爆の子の像（献鶴）	
潮陵中学校 3年 池田 和葵	18
安塚中学校 3年 矢澤 朱里	19
・ 被爆遺構展示館	
牧中学校 2年 秋山 笑胡	20
板倉中学校 3年 深石 蒼良	21

・ 広島原爆死没者追悼平和祈念館				
清里中学校	2年	市村 舞花	・・・・・・・・	22
三和中学校	3年	佐藤 颯真	・・・・・・・・	23
・ 平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス）				
名立中学校	3年	小林 亜瑚	・・・・・・・・	24
直江津中等教育学校	3年	熊谷 和起	・・・・・・・・	25
・ 上越日豪協会主催「平和の集い」				
直江津中学校	3年	小林 未尋	・・・・・・・・	26
直江津東中学校	3年	古澤 周大	・・・・・・・・	27
・ 上越市教育コラボ 2023 学び愛フェスタ			・・・・・・・・	28

非核平和友好都市宣言



## 事業の日程

### 【事前説明会】 7月15日（土）

時間 午後1時～4時

場所 高田図書館 第1、2会議室ほか

内容 自己紹介、事業説明、被爆体験伝承講話、平和展見学

### 【出発式】 8月5日（土）

時間 午前6時45分～6時55分

場所 上越妙高駅 もてなしドーム

内容 参加者紹介、教育長激励のあいさつ、折り鶴の付託及び誓いの言葉

### 【派遣日程】

#### 8月5日（土）

- ・移動（上越妙高駅～広島駅）
- ・袋町小学校平和資料館
- ・広島平和記念資料館 見学
- ・平和記念公園 見学

#### 8月6日（日）

- ・広島市原爆死没者慰霊式  
見学並びに平和祈念式参列
- ・献花・献水慰霊式 参列
- ・呉市海事歴史科学館 見学
- ・海上自衛隊呉資料館 見学
- ・灯ろう流し

#### 8月7日（月）

- ・原爆の子の像 献鶴
- ・被爆遺構展示館 見学
- ・広島原爆死没者追悼平和祈念館 見学
- ・平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス） 見学
- ・移動（広島駅～上越妙高駅）
- ・解散

### 【上越日豪協会主催「平和の集い」】

#### 8月11日（金・祝）

時間 午後5時～6時30分

場所 レインボーセンター 多目的ホール

内容 派遣報告、平和の誓い



### 【上越市教育コラボ 2023 学び愛フェスタ】

#### 11月18日（土）

時間 午後2時～2時20分

場所 高田城址公園オーレンプラザ 特設ステージ

内容 派遣報告、平和の誓い



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：事務局

内容	事前説明会 ・ 事業説明 ・ 被爆体験伝承講話 ・ 平和展の見学
訪問日	令和5年7月15日(土) 午後1時～4時
場所	高田図書館 第1、2会議室ほか

## 広島平和記念式典中学生派遣事業事前説明会

(内容)

- 1 開会
- 2 スタッフ紹介
- 3 アイスブレイク(仲間づくり活動)
- 4 日程説明
- 5 報告書等の作成、役割分担について
  - (1) 報告書作成担当見学先について
  - (2) 8月11日(金)平和の集い、11月18日(土)上越市教育コラボ2023学び愛フェスタでの報告について
  - (3) 挨拶・献鶴・献花・献水など役割分担
- 6 被爆体験伝承講話(オンライン)
- 7 平和展見学



(様子)

代表生徒たちは事業の説明、被爆体験伝承講話に真剣に耳を傾けています。派遣中の役割分担について立候補したり、感想を発表したりと、積極的な姿勢が見られました。



初めての顔合わせで緊張した様子が伺えましたが、活動を通じて交流が深まりました。

## 感じたこと、伝えたいこと

生徒から「広島でより多くのことに気づくため、もっと調べてから行きたい」という声がありました。訪問先を調べ、なぜ世界から戦争や紛争がなくなるのか考えてから現地に向かうこととしました。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：事務局

内 容	出発式 ・参加者紹介 ・教育長長激励のあいさつ ・折り鶴の付託及び誓いの言葉
訪問日	令和5年8月5日(土) 午前6時45分～6時55分
場 所	上越妙高駅 もてなしドーム

保護者、学校関係者の多くの皆様から見送りに来ていただきました。

早川教育長から「広島の中で、その場所ですら感じることもできない平和への強い想いをしっかりと皆さんの心に感じ取ってきてください。そして、それをご家族や友人など皆さんの周りの一人でも多くの方に伝えてください。」と激励の言葉をいただきました。

市内全中学校の生徒と平和展に訪れた方々が作成した折り鶴は、派遣者を代表して潮陵中学校 池田和葵さんが早川教育長から受け取りました。

そして派遣生徒を代表して直江津中等教育学校 熊谷和起さんが誓いの言葉を述べました。

## ～平和の誓い～

昭和20年8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下され、およそ14万人もの人が亡くなりました。

あれから78年経った今、戦争を経験された方々の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増えており、戦争の記憶の風化が懸念されています。

二度と戦争を繰り返さないためにも、あらゆる世代の方々に戦争の記憶・記録を継承し、次世代を担う私たちが平和を願う心を育むことが大切だと考えます。

今回、私たち24人は各中学校の代表として、広島平和記念式典派遣事業に参加します。

広島では、核兵器がもたらした悲惨な歴史や平和の尊さについて認識を深め、平和を守り続けることの大切さと必要性を周りの人たちに伝えられるように、自分たちの目で多くものを見て、聞いて、感じて、しっかりと学べます。

令和5年8月5日 直江津中等教育学校 熊谷 和起



## 感じたこと、伝えたいこと

代表生徒たちは、自らの使命感と折り鶴に託された上越市民の想いを胸に、保護者や学校関係者に元気いっぱい「行ってきます」と手を振り、広島へ向かいました。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：城北中学校 3年 布施 コナ

場 所	袋町小学校平和資料館
訪 問 日	令和5年8月5日(土) 午後2時30分～3時15分
事前に調べたこと	爆心地から約460mしか離れていない袋町小学校は、学童疎開をしていなかった3年生と先生方が多く亡くなったそうです。爆心地との間にビルがあったため倒壊はしなかったそうです。被爆した人たちの救護所にもなっていたということがわかりました。どのように使われたのか、当時の悲惨さなど深く考えていきたいです。

## 袋町小学校平和資料館

### 爆風で飛ばされた太鼓



この写真は当時、原子爆弾の爆風で飛ばされた太鼓と言われています。この太鼓を見た時、太鼓の面がこんなにポロポロになるくらいの暴風だったんだなと思いました。表面の部分が黒ずんでいます。このことから灰がたくさん舞っていたことがわかりました。たくさんの灰が舞う中でたくさんの人々が苦しみ、亡くなったことを考えるととても心が締め付けられる気持ちになりました。

### 家族を探し求めて



これは、核爆弾の熱で真っ黒になった校舎のかべに自分の名前や家族や知人に短いメッセージを書いたものです。この壁は一部分剥がれています。剥がれているところをよく見ると黒い部分の続きになっていることがわかります。この伝言は、校舎の壁塗りのあとなくなってしまいましたが、剥がして残したそうです。命がけで家族や知人を探していることもわかりました。

### 命を支えた柱



1945年8月15日17時17秒の熱で炭になった学校の柱は今でも残っています。この柱を見た時どれだけ熱かったか、しかもそこに人がいたと考えるととても辛くなりました。炭になったこの柱は今にも崩れそうです。この柱が崩れていたら建物は崩れています。この柱が残ったことで当時の学校を支えていると思うと命を支えた柱だなと思いました。

### 平和をつなぐ



袋町小学校の二階につながる階段の踊り場には、たくさんの学校からの千羽鶴が飾られていました。中には、鶴で平和の文字を作って額縁に入れているものもありました。様々な形で平和を願っていることがわかりました。原爆ドームと同じく1945年の惨状が残っている場所なので、平和への想いが強く感じられました。

## 感じたこと、伝えたいこと

1945年8月6日午前8時15分17秒の惨状はもちろん、その後の怪我人の救助に役立った学校ということがわかりました。壁に書かれたメッセージを間近に見てその時の字体から必死に家族や知人を探していたんだなと思いました。絶対に8月6日のことは忘れてはいけません。自分にとって平和のために今できることを探していきたいです。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：城東中学校 3年 丸田 翔和

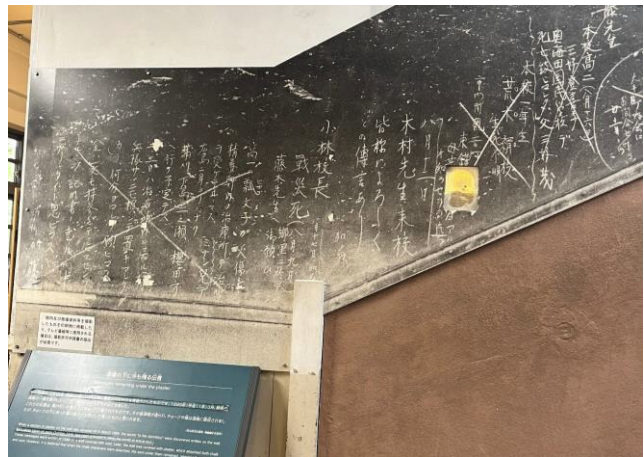
場 所	袋町小学校平和資料館
訪 問 日	令和5年8月5日（土） 午後2時30分～3時15分
事前に調べたこと	爆心地から最も近い小学校の一つで、館内には当時の写真や資料が展示されています。

## 袋町小学校平和資料館

### 焼けた壁に書かれた伝言

原爆の熱によって焼け焦げて黒くなった壁を、当時は黒板のようにして伝言を残したり、家族の名前を書いて探すのに活用したりして、戦後に塗られた壁を剥がして発見されました。一瞬にして全てがなくなり大混乱の中、当時の袋町小学校では人探しや自身の消息を伝えるなど、重要な場所になっていました。

しかし、中には亡くなった方について書いてあったものもあり、それに納得できず町中を探し回った母親もいたそうです。



### 原爆が落ちる前（左）と 原爆が落ちた後（右）



アメリカ軍が撮影した原爆を投下する前の写真（左）は7月25日に撮られたものであり、その時には広島に投下することが決定していたそうです。

この2枚の写真で1発の原爆で、広島が壊滅状態に陥ったこと、多くの命が奪われたことがはっきりと感じ取れます。

他にも当時の貴重な資料が、展示されています。



### 感じたこと、伝えたいこと

広島への原爆投下から78年がたった今、私を含め多くの人々の記憶にこの事はありません。しかし、戦争を経験していない私たちでも、当時の資料や建物を見て、知って、学ぶことで戦争、核兵器の悲惨さを体感できます。このことは、決して他人事ではないと思います。だからこそ、1人1人が戦争のことを知って伝えていくべきだと思いました。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：城西中学校 3年 平原 董

場 所	平和記念資料館
訪 問 日	令和5年8月5日（土） 午後3時30分～5時00分
事前に調べたこと	平和記念資料館では言葉だけではなく被爆資料や遺品、証言を見ながら広島市の被爆前後の様子を伝えてくれます。これらのことを通じて原子爆弾の恐ろしさを感じてきたいです。

## 変わってしまった広島

1945年8月6日午前8時15分

多くの人々が暮らし、賑わっていた広島市の街は原爆によって一瞬にして奪われました。

街を一瞬にして破壊してしまう原爆は非常に恐ろしいものだと思います。



## 8月6日の惨状

平和記念資料館に「人影の石」という展示物がありました。爆心地から260mの所にある銀行の石段に座っていた方の周りが原爆の熱によって白く焼け人の影の部分が残ったと考えられています。人影しかないにも関わらず、この人影の部分は自分の親族であると名乗りをあげる人が多くいたそうです。つまり、大切な親族を失ってつらい思いをされた方がそれほど多くいたのだと思います。

## 放射線による被害

原爆の影響は爆発したそのひとときだけではなく、その後後遺症としても影響を与えました。主な症状として高熱や下痢、髪の毛の抜け、歯茎の出血などです。そして、放射線の影響で被爆直後に広島市内に入った方でも症状が現れ、中には亡くなる方もいたそうです。これらの症状はどれも悲惨なもので、当時の写真を見て心が痛みました。



## 感じたこと、伝えたいこと

原爆についての認識は国籍、年齢を問わず浅いと思います。しかし今回、平和記念資料館へ行ったときは外国の方や、子どもまで真剣に展示を見ている姿がありました。その様子を見てさらに多くの人が原爆に興味を持ってくれたら良いのと思う事ができました。そして原爆についての認識が浅かった私は、平和記念資料館へ行って今まで知っていた被害の大きさとの違いに衝撃を受けたので、原爆のことをあまり知らない人に原爆は想像を超えた恐ろしさであることを伝えたいです。





# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：雄志中学校 3年 小日向 遼馬

場 所	広島平和記念資料館
訪 問 日	令和5年8月5日（土曜日） 午後3時30分～5時
事前に調べたこと	本館と東館を含めて原爆の悲惨さや被爆者の遺品の資料が展示されています。その他にも被爆前と被爆後の広島や原爆が投下された経緯などの資料が展示されています。

## 78年前の8月6日

1945年8月6日(月曜日)に広島市に原子爆弾『リトルボーイ』が投下されました。時刻は8時15分17秒でした。これは人類史上初の都市に対する核攻撃でした。原爆が投下されてから一瞬にしてたくさんの尊い命が原爆によって奪われました。

奇跡的に生き残った人もいましたが、放射線の影響でいろいろな病気を発症し亡くなっていく人が大勢いました。生き残った人はその後の人生が地獄でしかなかったそうです。病気にかかって病院に行っても十分な治療が受けられない人も少なくはありませんでした。家族とはぐれてしまった子供は被害を受けながらも必死に泣いて親を探し、親も自分の子供を必死に探そうとするが動くこともできず、再会ができずに亡くなっていくケースも多かったそうです。

街のあちこちに亡くなった方の死体が倒れていました。原爆投下中心地周辺の温度は3000度から4000度にもなりました。人々の皮膚はただれ、性別が分からないぐらいまで被害を受けました。そのため人々は水を欲していました。原爆が投下されてから、しばらくすると黒い雨が降ってきました。それは雨に放射性物質が染み込み黒くなったもので人間に害を与えるものでした。ですが人々はとにかく水が欲しかったので、空に向かって口を開け、その黒い雨を飲んでいました。その黒い雨を飲んだ人はその後いろいろな病気にかかり亡くなったそうです。死者はたくさん出ましたが、子供の死者の割合は小学1年生から4年生までの割合が高くなっています。それは小学5年生と6年生は戦争に行つて国のために戦う役目があったため、安全な地方の方に疎開していました。政府はそんな小学5、6年生をととても大切にしていたので死者の割合が低いそうです。

## 原爆の悲惨さ

僕が一番印象的だったのは爆風などの影響を受けた自転車です。タイヤは変形し、この自転車は使うことができません。原爆の威力を、物から感じるができます。この他にもたくさんの物が展示されています。写真からどれだけ原爆が被害を与えたのかが感じ取れると思います。



## 感じたこと、伝えたいこと

資料館を見学してみて、改めて戦争の怖さを知ったし原爆がどれだけ怖いものかも知ることができたので、良い経験になりました。当時の人のことを思うと、苦しい体験をしたんだなと思いました。自分が住んでる国でこんなことが起きていたと思うと、心が痛くなります。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：八千浦中学校 3年 横山 春人

場 所	平和記念公園
訪 問 日	令和5年8月5日（土） 午後5時00分～6時30分
事前に調べたこと	原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して開設された都市公園 原爆慰霊碑など様々なモニュメントがある。

平和記念公園には、平和を祈る様々なモニュメントがありました。

## 原爆の子の像

まず印象的だったのが「原爆の子の像」でした。

佐々木貞子さんをはじめとする原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけることが目的です。

その奥には、全国から贈られた何万もの千羽鶴がありました。わたしも学校の代表として献鶴をしましたが、無数の思いのこもった千羽鶴たちに圧倒されました。



## 原爆ドーム

原爆ドームも印象に残ったもののひとつです。視覚的に原爆の恐ろしさを感じることができる原爆ドームは見ただけで当時の悲惨さを感じました。



## 平和の灯火

また原爆資料館と原爆ドームの中心に位置している平和の灯火も思いを感じました。真ん中の火は世界から核兵器が消えたその時に消すということを知り、今もなお世界では核兵器が消えておらず、原爆の危険性があるということを再確認されました。



## 感じたこと、伝えたいこと

平和記念公園で感じたことは、広島の人たちはずっと核兵器のない世界を祈り続けているのに、世界から核兵器が無くならないことが現実であるということでした。そこから、もう二度と世界のどこであってもしっかりとあんなことがあってはならないことをより多くの人に伝えていきたいです。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：春日中学校 3年 伊藤 寧々

場 所	平和記念公園
訪 問 日	令和5年8月5日（土） 午後5時00分～6時30分
事前に調べたこと	平和記念公園には世界に向けて人類の平和を願い訴えること、過去の過ちを二度と繰り返さないなどの決意が込められています。 公園内にある原爆の子の像や原爆ドームなどをしっかりと見て学んできたいです。

## 『原爆ドーム』

原爆が落とされる前は産業奨励館として使われていました。原爆はこの建物の南東約160mの上空600mで炸裂し、建物は天井から火を吹いて全焼しました。そこでは、約30名が即死したとされています。8月6日に落とされた原爆で苦しみながら亡くなられた方々の悲痛な思いが伝わってきました。

## 『平和の灯』

慰霊碑の後ろにある平和の灯は1964年8月1日に点火されて以来、2023年までの59年間燃え続けています。

犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和の願いが込められ、1964年に建設されました。また、広島市への原爆投下によって発生した「原爆の火」は市内にはないですが、福岡県に今でも当時の原爆の火が残されています。

## 『原爆の子の像』

塔の上の方は2歳の時に被爆し、12歳で白血病で亡くなった佐々木禎子さんです。

「鶴を千羽折ると願いが叶う」と信じ、生きたいという強い思いを込めながら1300羽以上の折り鶴を作りました。内部の鐘は湯川秀樹が子ども達の気持ちに感動し、風鈴式に作られた鐘をプレゼントしました。



## 感じたこと、伝えたいこと

私も含め、この時代に生きている人は78年前の恐ろしく悲惨な出来事を体験したこともないし、自分の目で当時の8月6日の広島を見たこともない人達ばかりです。資料館や原爆ドームを訪れ、この場所で本当に起きたことなのだと思えることができました。広島の方々が教えてくれた、日々大切さや平和や命の尊さを伝えていきます。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：浦川原中学校 3年 井部 柚花

場 所	平和記念式典 広島平和記念公園内
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午前8時00分～8時50分
事前に調べたこと	広島県広島市に原爆が投下された8月6日の原爆忌・平和記念日に平和記念公園で行われます。原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念する式典です。 広島の方々や式典に参加した方々の平和への思いを学んできたいと思います。また、実際に式典に参列することで学ぶことができる平和への願いや思いを実感してきたいと思います。

## [平和記念式典プログラム]

- 8:00 開式・原爆死没者名簿奉納
- 8:03 式辞
- 8:08 献花
- 8:15 黙とう・平和の鐘
- 8:16 平和宣言・放鳩
- 8:24 平和への誓い
- 8:29 あいさつ
- 8:46 ひろしま平和の歌
- 8:50 閉式



1945年8月6日午前8時15分に原爆が投下された広島県広島市では毎年8月6日に広島平和記念公園にて平和記念式典が行われています。それは、原爆犠牲者の御霊を慰めるとともに世界恒久平和の実現を祈念するためです。この式典にはとても多くの方々が訪れ、参列国は110カ国以上にもなります。今から78年前この地で起こった原爆投下はどれだけの人を苦しめ、どれだけの人を命を奪ったのか、式典に参列してその重みを実感しました。

私は、平和への誓いで述べられた「みなさんにとって平和とは何ですか。」という言葉がとても印象に残っています。それは戦争・原爆投下は二度と起きてはいけないことだと思っても心の中ではどこか他人事のように考えている部分があったからです。この言葉を聞いて自分にとって平和とは何かを考える良い機会になりました。身近なところにも平和はたくさんあり、当たり前のように毎日を過ごしていることも平和なのだと感じました。

また、「私たちにもできることがあります。」という言葉に私は、はっと気づかされました。戦争・原爆投下について他人事のように考えるのではなく、一人一人が自分事として考えることが大切だと思います。そして、伝承者が減少していくなかで今私たちにできることは身近な人に今回の広島派遣事業で学んだことを伝えることだと思っています。

式典に参列することで広島の方々や式典に参列した方々の平和への思いを感じることができて良かったです。核兵器のない平和な世界が訪れるよう今私たちにできることを考え、行動していきたいです。

## 感じたこと、伝えたいこと

平和記念式典に参列して広島の方々や式典に参列した方々の平和への思いを感じることができました。また、この式典を通して「平和」というたった二字の言葉がどれだけ大切な事なのか実感しました。「たとえ小さなことでも私たちにできることはある」、「他人事として捉えるのではなく自分事として捉えることが大切」ということを伝えたいです。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：大島中学校 3年 吉野 陽向

場 所	平和記念式典
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午前8時00分～8時50分
事前に調べたこと	原爆死没者の霊を慰めるとともに、世界恒久平和の実現を祈念することを目的に、慰霊碑が平和記念公園に建立されたもの 1951年（昭和26年）から今まで広島市の開催で毎年8月6日に行われている

## 小学生の平和への誓い

私が鮮明に覚えているのは小学六年生二人の平和への誓いです。体験していない人々がこの言葉を伝えていくことで被爆を体験していない人々にも同じ目線で伝えられるのではないかと感じました。黙祷の時には今まで何も感じなかったのですが、資料館を見てその中にあった資料の風景や被爆して亡くなられた人々の写真などが頭の中で溢れてきました。



## 式典のデモについて

式典でのデモ活動というものをテレビ以外で聞きました。ホテルに帰ってからそのデモは何を目的に行っていることなのか気になり調べてみると、「8月6日は静かに祈るべきだ」など共感できることも書かれていました。ですがやはり自分は毎年式典を行いテレビで放送し、より多くの人がこの日を意識するようすべきだと考えます。



## 式典の参列国

参列国の表を見た時、100以上の国が参加してくださっていることを自分の目で知ることができました。これほど多くの地域の人々がこのことはもう繰り返してはいけないと感じていることに、とても嬉しく思いました。これからも参列国の参加が多くなってほしいと感じました。



## 感じたこと、伝えたいこと

私はこの3日間で今まで体験したことのないようなことを多く学びました。特に2日目ではテレビの映像ではなく自分の目で式典について見て被曝者の人々のことをより深く考え、黙祷をすることができました。この式典を通してこれまでよりも強く原子爆弾は地球からなくなるべきだと感じるようになりました。一刻も早く平和の灯の火が消えることを願っています。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：柿崎中学校 3年 山賀 陽太

場 所	献花・献水慰霊式
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午前9時20分～10時30分
事前に調べたこと	献花・献水慰霊式は広島被爆者援護会が代表で運営しており毎年原爆ドームの前で行います。 二度と同じ過ちを繰り返さないために花を捧げたり平和についてのお話があるそうです。 命の尊さを感じながら参加してきます。



1 開会の挨拶 2 黙祷 3 開催者挨拶 4 来賓挨拶

5 平和の誓い

6 献花・代理献花

7 献水

核で体が燃え元安川に大勢の人が飛び込んだことから献水が行われます

8 千羽鶴献納 9 お礼の言葉



## 感じたこと、伝えたいこと

話を聞いたり献花をして思ったことは、広島で起こった事を「風化」させない事です。原爆が投下され、78年経った今被災した方々は平均80歳です。あと20年もたったら、被災した方々は、きっと0になってしまいます。

そうすると広島で起こった出来事が歴史へと移り変わってしまい、そして原爆は知っているも調べることは、少なくなっていくと思います。

そのため、今回広島で学んだ核の恐ろしさ、当たり前の日常が一瞬の光で全てが失われてしまう事などを学校や地域に持ちかえり、もうあの悲劇を二度と繰り返さない為にこれからの平和を担うひとりの若者として継承していきます。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：大湯町中学校 3年 草間 隼颯

場 所	献花・献水慰霊式
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午前9時20分～10時30分
事前に調べたこと	この式は、原爆の犠牲者を追悼し、これからの平和を願うために行います。その意識を持って献花しようと思います。

## 献花

献花は、原爆投下の被災者や亡くなった人を追悼し、平和と戦争の惨禍を思い出すための行為です。これにより、過去の苦しみを忘れずに、核兵器の使用や戦争の繰り返しを防ぐための意識が高まることを願って行われます。



## 献水

献水は、原爆投下の被災者への哀悼と尊敬の念を示すための行為です。献水は、被災者が水を求めて苦しんだ過去の出来事を思い起こし、同時に水が生命の象徴であることから、平和と人間の尊厳の大切さを訴える象徴的な行為とされています。

これらの行事を通して、平和の大切さと核兵器廃絶への願いが表現されています。

## 感じたこと、伝えたいこと

この派遣事業全体を通して、核兵器の恐ろしさやその被害などについて知ることができました。そのうえで、この世から一刻も早く核兵器がなくなって欲しいと思いました。また、これらの出来事が忘れられることなく、後世にまで語り継がれて欲しいです。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：頸城中学校 3年 大瀧 ほの香

場 所	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午後1時50分～3時40分
事前に調べたこと	呉市は、造船が盛んに行われていて、そのため空襲が激しかったということ。

## ○戦艦「大和」について

全長 263.0m 水線長 256.0m 最大幅 38.9m 満載排水量 72,809トン 公試排水量 69,100トン  
 基準排水量 65,000トン 公試最大量 27.46ノット（時速約51キロ） 軸馬力 153,553馬力  
 重油量 6,400トン 航続力 16ノット 7200海里（13,334キロ）

## ○「大和」の技術

「大和」の発電機は8基あり、合計で4800キロワットの発電力があつた。また、攻撃を受けたときの被害を最小限にするため、1基を1室に配置し、各室が離れていた。こうした技術は戦後、大型発電機の発達を促した。「大和」の主砲は重さ約1.5トンの弾丸を約40秒ごとに一弾発射できた。主砲などを製作した工作機械や砲塔の組立との性能を調査するビットは、今でも原子炉の調査に利用されている。



## 感じたこと、伝えたいこと

「大和」について深く調べると、日本の歴史についても知る事ができました。そして、「大和」の技術が今でも役立っていることには、すごく驚かされました。この大きな戦艦を造ったことは、日本の工業・産業の大きな基盤にはなりましたが、その裏で多くの犠牲があつたことは忘れてはなりません。当時の戦艦大和は、国家の最高機密でした。なので、乗員が共通して言っていたのが、大和と運命を共にするのならば、本望だそうです。3300名中約200名が救助されましたが、救助された方も、とても重い罪悪感を感じたのではないかと思います。私が大和ミュージアムを訪れて感じたことは、戦争は未来にとっても影響すること、戦争をしているときは、隊員は政府に洗脳されていたのかなということです。日本は、原爆を落とされていて、戦争で負けているからこそ、伝えられることがたくさんあると思います。戦争を体験している人は、年々減ってきていますが、その人たちの気持ちを含め、平和の大切さを伝えていきたいと思っています。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：上越市立吉川中学校 3年 竹田 梨紗

場 所	呉市海事歴史科学館
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午後1時50分～3時40分
事前に調べたこと	呉市は立地がよく、海軍の拠点となっていました。そこで造船をしたり兵隊を育成したりしていました。 戦時中・戦後の呉市の様子、戦時下で成長した技術について学んでいきたいと思います。

## 1. 呉の歴史

呉海軍工廠を作り、短期間で二隻の一等巡洋艦を完成させ日本一の海軍工場としての地位を上げました。海軍拡張にともなう技術の進歩に加え、大戦景気によって呉のまちは好景気にわきました。また、世界の技術に追いつくため、海軍先進国であったイギリスから導入した最先端の技術を発展させて、世界有数の艦艇を建造しました。海軍工廠では、効率よく作業ができるように「化学的管理方法」が導入され、電気溶接技術などの新しい技術を使った艦艇の建造や改装がおこなわれました。また、工場内には技手養成所などの技術養成機関があり、優秀な人材の育成も図られました。



## 2. 戦艦大和

「大和」の技術は現在も世界の大型タンカーから漁船に至るまで幅広く利用されています。「大和」は沖縄海上特攻の命令が下り、九州南西沖の海上で沈没しました。乗組員 3332 名、うち生存者は 276 名。3056 名の尊い命が失われました。



## 3. 呉と太平洋戦争

日本の艦艇の建造・修理を担う呉海軍工廠は重要な役割を果たすようになり、多忙になっていきました。しかし、戦局が悪化してくると、日本最大の海軍工廠があった呉は、アメリカ軍の空襲の標的となり、14回にも及ぶ空襲を受けました。

戦後は海軍施設のあった場所に企業を誘致するなどし、呉は平和産業港湾都市として歩んでいくことになります。そして、造船業・鉄鋼業をはじめとした「ものづくり産業」が集まる臨海工業都市として発展し広島県の産業を支えました。

## 感じたこと、伝えたいこと

戦争は絶対にしてはいけないけど、技術が発達したことやその技術が今も使われているということを知り、全てを悪く言うことはできないと思いました。

技術が発達したことによって空襲の標的になり、犠牲者が出てしまったことが分かり心が締め付けられるような気持ちになりました。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：中郷中学校 3年 川久保 駿

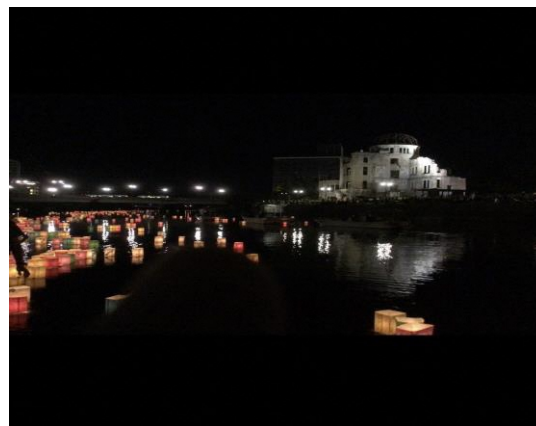
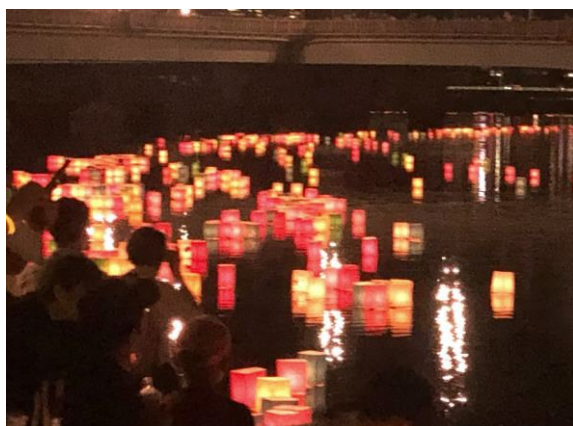
場 所	灯ろう流し（平和記念公園元安川）
訪 問 日	令和5年8月6日（日） 午後8時30分～午後9時00分
事前に調べたこと	原爆で親族や知人を失った遺族や仲間たちが「供養」と「復興」を願い手作りの灯籠を川に流したのが始まり。それから毎年8月6日に元安川に灯籠を流している。

## 1 灯ろう流しの意味

灯ろうを流している理由は、被爆した多くの人達が原爆の熱さに耐えられず、水を求めて元安川に飛び込み込んだことから、亡くなった人たちを慰霊するために行われています。

## 2 灯ろうの火種

灯ろうの火種は福岡県八女市星野村で保されていて、その火は村で「平和の火」として今なお大切に守られています。その火を使って灯ろうを流したため、元安川はとても綺麗にそして賑やかになりました。



## 3 メッセージを記す色紙

灯ろうを流す色紙には原爆の子の像に向けられた折り鶴の再生紙が使われていたり、ほかにも卒業証書などにも再利用されたりしていました。

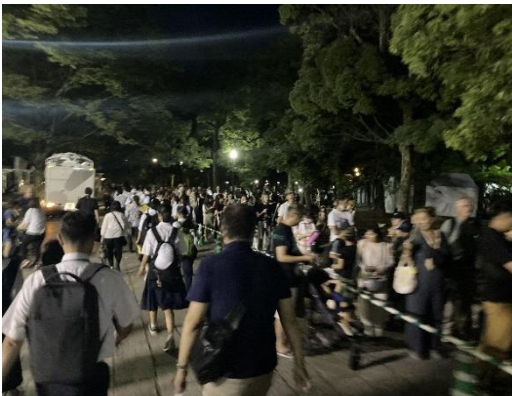
## 感じたこと、伝えたいこと

78年前には死体で埋め尽くされていた元安川ですが、亡くなった人の魂が元安川を綺麗に彩り平和は当たり前じゃないことと、命の尊さについて感じることができました。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：上越教育大学附属中学校 3年 坂上 奏子

場 所	とうろう流し (平和記念公園元安川)
訪 問 日	令和5年8月6日(日) 午後8時30分～午後9時00分
事前に調べたこと	第二次世界大戦後間もなく原爆で親族や知人を失った遺族や仲間たちが「供養」と「復興」を願い手作りのとうろうを川に流したのが始まりと言われており、毎年8月6日に「とうろう」が流されるようになったそうです。

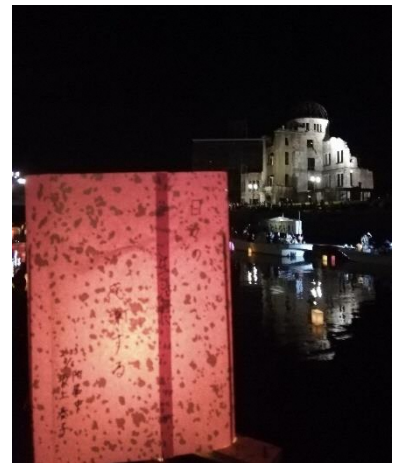


## 1 参加者の人数

5月に広島で開催されたG7広島サミットで注目されたことや、4年ぶりの通常開催だったこと、世界で戦争が続いていることなどから、たくさんの方がとうろう流しに訪れていました。

## 2 再生紙の利用

原爆の子の像の手に手向けられた折り鶴を再生した紙を一部のとうろうに使用しています。折り鶴の再生紙を使うことで環境にも優しく、折り鶴に込められた平和への願いがとうろうにも込められるため、平和への願いがより一層強くなると思います。



## 3 とうろうが持つ意味

亡くなられた方の名前と流した人の名前を書くのが一般的ですが、今では国内外から広島へ来られた方々が平和への思いが書かれるようになりました。

とうろう流しは、「慰霊」と「ピースメッセージ」の両方の意味を持つようになりました。2つの意味が込められたとうろうをたくさんの方達が流していました。

## 感じたこと、伝えたいこと

とうろう流しに参加して改めて「平和」という思いには国籍や年齢、人種、性別などは関係ないと感じることができました。一人一人の平和への思いが込められたとうろうが、78年前原爆で亡くなってしまった方々に届き、同じような悲劇が二度と起こらないようにするきっかけになることを願います。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：潮陵中学校 3年 池田 和葵

場 所	原爆の子の像（献鶴）
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 午前7時50分～8時10分
事前に調べたこと	原爆の子の像にある鶴や献鶴があるのは、原爆の後遺症に苦しんだ佐々木禎子さんという方が「鶴を折れば願いが叶い、病気も治る」と言って折り鶴を折っていたのが元になっています。

## 折り鶴受け取り

1日目の出発式に、上越市からの折り鶴を受け取りました。戦争や原爆についてよく考え、今後に活かそうという意思が強まりました。



## 原爆の子の像

原爆の子の像は、全国の学校からの募金でつくられました。下には「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」という石碑があります。像についている鐘を鳴らしましたが、これまでにさまざまな資料館を訪問して、戦争の悲惨さをより理解してきた自分にとってなんとも言えない音がしました。

## 献鶴

広島訪問 3日目の朝、原爆の子の像の周りに設置された施設に献鶴してきました。それぞれの学校が折った鶴を供えました。他にも折り鶴が供えられており、多くの人が平和への願いを持っていることがわかりました。



## 感じたこと、伝えたいこと

今回、広島に3日間訪問しましたが、人混みがすごく、外国人も多かった印象で、それほど大きな行事なんだと体感しました。

また僕は、平和記念式典の平和の誓いの「身近なところにも、たくさんの平和があります」が心に残っています。今まで平和は、世界レベルの問題だと考えていましたが、自分にもできることはたくさんあると思うようになりました。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：安塚中学校 3年 矢澤 朱里

場 所	平和記念公園 原爆の子の像
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 午前7時50分～8時10分
事前に調べたこと	原爆の子の像は佐々木禎子さんの同級生らによる募金運動により作られた像。作者は菊池一雄さ 1958年 5月5日完成

原爆の像の制作のきっかけは佐々木禎子さんです。

佐々木禎子さんはわずか2歳で被爆しました。その10年後に白血病と診断され病気が早く治るようにと薬の袋などで鶴を折りました。ですが、その願いも虚しく8か月後に亡くなりました。それを悲しんだ禎子さんの同級生達は、禎子さんのために何か作れないかと悩んでいる時に、原爆の子の像を作らないかと言われ、禎子さんの死から1年後の10月に原爆の子の像が完成しました。現在でも鶴が折られ原爆の子の像に飾られています。

原爆の子の像は原爆で亡くなった多くの子もたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけるために建立されました。碑文には「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきざぐための」と刻まれています。



## 感じたこと、伝えたいこと

私は、広島派遣事業で、初めて原爆の像に込められた思いを知りました。原爆は、一瞬にして多くの命を奪っただけではなく、何年も何十年もたくさんの人を苦しめ続けているものだとも知りました。改めて原爆の恐ろしさと、平和の尊さと平和を願う思いの大切さを感じました。佐々木禎子さんを含め、何千、何万の子もたちの命や幸せな生活が失われたと思うと心が痛くなります。だから、私は原爆や戦争の悲劇を繰り返さないために、今回の経験や見聞きしたことを、家族や友人に伝え、そして、日本の平和、世界の平和のために自分ができることを少しずつでも増やしていきたいと思いました。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：牧中学校 2年 秋山 笑胡

場 所	被爆遺構展示館
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 午前8時30分～8時38分
事前に調べたこと	広島平和記念資料館北側に位置する「被爆遺構展示館」では、原子爆弾による被害の爪痕が残る住居跡や道路跡を露出展示しています。展示館整備は、「被爆遺構を通して、平和記念公園を訪れる人たちに、この地にはかつて多くの人が暮らす町が存在し、その日常が一発の原子爆弾により一瞬にして奪われたことを知ってもらいたい」「平和への思いをよりいっそう深くしてもらいたい」という思いから、広島市によって整備され、2022年3月に開館しました。

右の写真は爆心地から300m離れていた旧中島地区の被爆の証言のパネルです。他にも旧中島地区に原爆が落とされる前の街並みや天神町の説明などのパネルが設置されていました。分かった事は旧中島地区はとても栄えていた町であったという事です。



左の写真は原爆が落とされた後の実際の住居跡です。コンクリートが生々しさをさらに生み出しているなと思いました。そして実際に人が住んでいたと思うと改めて原爆はヒロシマの人達の当たり前前の生活を奪う物だと思いました。

## 感じたこと、伝えたいこと

原爆はヒロシマの人達のごく当たり前前の生活を奪いました。今世界で戦争が起きています。核兵器の使用を盾にしている国には1回でもヒロシマに来てもらい、原爆が落とされる恐ろしさを知るべきです。これからもっと原爆のことを知らない子が出てくると思います。原爆のことを風化させないように私達が伝えていかないといけないなと思いました。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：板倉中学校 3年 深石 蒼良

場 所	被爆遺構展示館
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 午前8時30分～8時38分
事前に調べたこと	2022年（令和4年）3月26日に開館したばかりの、原子爆弾による被害の痕跡が残る住居跡やアスファルト舗装された道路跡などを露出展示している、平和記念公園内の建物である。

右の写真の全体では被爆当時の民家や、道路の跡が露出展示されていました。これは家屋の土壁などが高熱で焼けて厚く固く堆積したもの（焼土層）や、焼けて炭と化した畳、板材などが出土している物だそうです。被爆前に中島地区と呼ばれていた平和記念公園一帯には、多くの家や、商店、旅館などが立ち並び、人々の日常の営み、にぎわい、長年培われていた文化がありました。

ですが1945年（昭和20年）8月6日、一発の原子爆弾によってそれらの日常が原子爆弾の爆風や、熱線によって一瞬で破壊されると共に多くの命が失われました。原子爆弾、戦争によって一瞬で今までの日常を破壊できてしまう現実に僕はその場で立ちすくみました。それほど原子爆弾は強力な物であったと言えますことが分かります。

さらにこの施設にはもう一つ紹介したい展示がありました。それは被爆の証言という展示でした。その一部を紹介したいと思います。



「グワーとドドッともなんと形容の仕方ない不思議な地鳴りがした。[地震か・・・]妻が不安そうに言った。気がつけば今まで鳴っていたラジオが止まっている。西方の山の上に、丁度アドバルン[無人の係留気球や風船を使った宣伝方法の一種。広告気球。]を上げたような球状の雲が、赤、青、黒、黄、金、銀5色否七色。違う。この世にある、色という色を全て集めたかと思えるような色キラキラと輝かせながら、ゆっくりゆっくり西南の天へ高く高く昇っていく。これこそ、キノコ雲と言われた原子雲のなれの果てで広島市民二十数万の精霊を呑み込んだ、呪いの雲であった。」

この証言から僕が思ったのは原子爆弾の破壊力がいかに大きくで、強力なのか、それが伝わってきました。

## 感じたこと、伝えたいこと

ヒロシマに落とされた一発の原子爆弾によって一瞬で人の命が、今までの日常が壊されてしまうことにとっても恐怖を感じ、原子爆弾を使っても地獄しか生まないのでもう二度と使ってはいけないということを感じました。この記憶が忘れられないように色々な人にこの貴重な体験で感じたりしたことを伝えていきたいです。

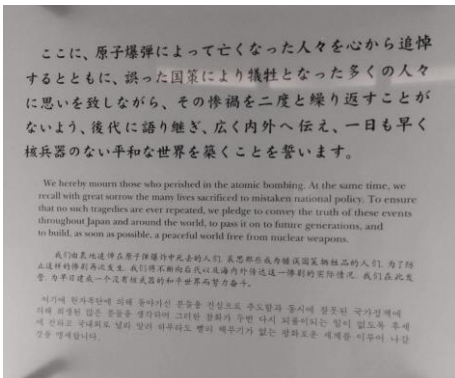
# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：清里中学校 2年 市村 舞花

場 所	広島原爆死没者追悼平和祈念館
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 午前8時40分～9時20分
事前に調べたこと	原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づき、国として原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、恒久の平和を祈念すると共に、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承することを目的としてできた施設である。

## 8時15分の時計と瓦礫

広島に原爆が落ちた時刻の8時15分の針を表したオブジェと実際の瓦礫が置かれました。実物を見て、「原爆は、本当にあったんだ。現実なんだ。」と感じました。



## 館内のたくさんの説明

館内を見学していると、ところどころに原爆についての説明などがたくさん記されていました。その説明の中に、国の過ちを認めている文があり国で建てられた施設である中、そのようなことを記しているということが戦争、原爆の悲惨さを表しているのだと思いました。

## 死没者のお名前、遺影を見て

お名前と写真が並べられているスクリーンと検索できる機器がありましたが、慰霊碑に収められている原爆死没者名簿の数（339,227名）よりも少ない登録数（26,655名）であったことから、身元がわかっていても写真がなかったり、ご遺族の方が登録を望まない方もいたのではないかなと思いました。また、私が見た遺影は名字がタ行から始まる方のものだったのですが、それだけでも数え切れないほどの方々が映されており、やはり信じられないくらいの方々が亡くなられたことがわかり、とても衝撃を受けました。

## 感じたこと、伝えたいこと

原爆によってたくさんの人の命や未来が一瞬にして奪われました。中には朝礼で外に出たまだ幼い子もいました。私たちが当たり前のように過ごしている時間も戦争によって全く当たり前ではなくなりました。そのありがたみを感じ、このようなことが起きないように語り継いで伝えていくことが大切であり、戦争のない平和な世界を目指していきたいと思いました。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：三和中学校 3年 佐藤 颯真

場 所	広島原爆死没者追悼平和祈念館
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 午前8時40分～9時20分
事前に調べたこと	ここは原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、被爆体験を後世まで継承していくことが目的の施設です。主な事業として、原爆による被爆体験談の収集、継承、原爆死没者の登録があります。原爆の被害についてどのように継承し、集めた体験談や死没者の写真、情報からどんな事を感じる事ができるのかを考え、学んできたいです。
	<b>1 平和祈念・死没者追悼空間</b> この施設の一番始めに大きな空間があります。この空間は原爆死没者を追悼し、平和について考える場所です。壁はタイルでできており、使われているタイルは原爆が落とされた1945年の終わりまでの死没者数約14万人と同じ数でできています。 空間の中央には水盤があります。その水盤は原爆が落とされた時間「8時15分」を表しており、水を求めて亡くなった方々を追悼するために水を捧げています。
	<b>2 広島ของ象台の氣象台員</b> この展示では広島ของ象台で働いていた氣象台員たちの被爆体験を映像とパネルで学ぶ事ができます。 広島ของ象台は戦時中、軍の管理下にあり氣象観測に関係なく軍事に関することでも使われていました。その氣象台で働いていたある一人の氣象台員が友人と体験したことや、その方が家族を失った時の気持ちを知る事ができます。そして原爆が落ちた後に広島を襲った台風「枕崎台風」が広島にもたらした被害についても学ぶ事ができます。
	<b>3 原爆死没者の写真・名簿を見て</b> 現在祈念館には、26,655名の死没者が登録されています。そのうちの一部を見てきましたが、子供から大人まで幅広い世代の人がいました。登録されている人の中の多くが家族や兄弟、姉妹でした。このように登録されている人は名前などの情報もあり、写真もある人も多くいましたが、名前などの情報だけで写真がない人も少なくはありませんでした。 写真等が残っているのは奇跡で原爆はその人が生きていた記録まで奪う物だと思いました。また、まだ残っている記録を失わないように大事に継承していきたいと思いました。
<b>感じたこと、伝えたいこと</b>	広島に行って教科書などでは伝えきれない原爆の恐ろしさを実感できました。 自分が広島で感じたことや学んだことを家族や友人など色々な人に話して知ってもらい、それをきっかけに原爆の恐ろしさや平和の大切さを継承していけるようにしたいです。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：名立中学校 3年 小林 亜瑚

場 所	平和記念公園・旧燃料会館(レストハウス)
訪 問 日	令和5年8月7日(月) 午前9時25分～9時50分
事前に調べたこと	大正屋呉服店として建設。鉄筋コンクリート造のモダンな呉服店は革新的な建物だった。戦争が激しくなり、経済統制も進められ、昭和19年(1944年)、県燃料配給統制組合に買収された。原爆によって屋根は大破、内部も破壊炎上し、地下室にいた1人をのぞいて全員が亡くなった。

※広島市平和記念公園レストハウス(所蔵)

## 原爆前の中島地区

右の写真は原爆が落とされる前の広島(模型)の街です(模型)。これを見ると、広島(模型)の街には家や大きい建物が密集しています。原爆投下直後の広島(模型)の街は跡形もなく粉々になり、深刻な被害をもたらしたということが見てわかります。



## かつてのにぎわいと建物の歴史

右の2枚の写真は原爆前の中島地区のにぎわいの様子やレストハウスの歴史が書かれています。被爆前の中島地区は沢山のお店が並び、街も発達している様子が書かれています。また、中島地区周辺の町並みを映した映像も見ることができます。

レストハウスの歴史は当時どんな建物だったのかを当時の写真を見ながら学ぶことができます。



## 残された地下室

レストハウスの地下に行くと、当時原爆によって壊されたり黒くなった柱やドア、壁、床などを見ることができます。それだけでなく、当時この地下にいた野村さんの被爆体験や証言・手記など写真や資料で紹介しています。被爆体験は実際の時間とともに紹介されています。



## 感じたこと、伝えたいこと

原爆が落とされる前の広島の中島地区のにぎわいや街の様子を見て、何気ない暮らしがたった一つの爆弾で壊されてしまうことに恐怖を感じました。また、地下には当時地下室にいた野村さんの被爆体験や証言・手記などを写真や資料で紹介したり、被爆した時のボロボロになった実際の地下を見ることができるのでぜひ見てほしいし、もっと原爆について触れてほしいと思いました。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：直江津中等教育学校 3年 熊谷 和起

場 所	平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス）
訪 問 日	令和5年8月7日（月） 9時25分～9時50分
事前に調べたこと	世界遺産・原爆ドームと、平和記念公園を結ぶ元安橋のたもとに位置します。この場所は、1929年に建った大正屋呉服店のレトロモダンなビルが元となる地上三階・地下一階の鉄筋コンクリート建物です。現在では、地域振興、観光、歴史の起点として、平和を継承する場となっています。この建物の地下一階は爆心地から約170m離れており、奇跡的に生き残った亡き野村英三さんによる証言やイラスト資料から当時の状況を学びたいと思います。

三階では、中川地区の歴史について展示されています。元々は大正屋呉服店でしたが、戦時体制により1943年に閉鎖され、翌年燃料会館として利用されていました。その後、原爆により、地下室を除いて全焼したものの、原型は保っていました。1982年から平和記念公園レストハウスとして整備され、公園の憩いの場となっています。

※広島市平和記念公園レストハウス（所蔵）



館内の様子①



館内の様子②

地下一階では、野村さんの被爆体験記が時系列順に整理・展示されていました。その中には、「死は時間の問題だ。ああもうダメかと思ったら、四人の自分の子供たちの顔がすうっと走馬灯の如く通り過ぎた。・・・」という言葉がありました。この言葉や黒いすすだらけで残った柱、壁から、原爆の凄惨さを感じました。



唯一の生存者・野村さんがいた地下一階



野村さんの体験記

## 感じたこと、伝えたいこと

悲惨な出来事を知ることの出来る施設の存在は、平和の尊さについて認識を深めるために大切な場所となります。二度と戦争を繰り返さないためにもあらゆる世代の方々に戦争の記憶・記録を継承していき、次世代を担う私たちが平和の心を育むことが必要だと感じました。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：直江津中学校 3年 小林 未尋

場 所	平和の集い
訪 問 日	令和5年8月11日(金) 午後5時00分～6時30分
事前に調べたこと	太平洋戦争中、旧直江津捕虜収容所で死亡したオーストラリア人捕虜や戦後刑死した収容所職員を追悼する行事。戦争の悲劇を語り継ごうと、市民団体「上越日豪協会」が毎年開いています。

私は、これから先、誰もが「平和」と呼び「幸せ」を感じられる世の中にしていきたいという強い思いを1人でも多くの人に伝えるために、広島平和記念式典中学生派遣事業で学び感じた事を上越市の中学生代表として平和の集いに参加し発表させて頂きました。

今年は、熱中症対策のため式典会場が変更になりましたが、平和の集いは直江津捕虜収容所跡地である平和記念公園で毎年行われています。会場には、旧直江津捕虜収容所で死亡したオーストラリア人捕虜や戦後刑死した収容所職員を追悼しようとオーストラリア大使館の方々も来ていました。

より多くの人に原爆の恐ろしさを伝え、もう二度と同じ過ちを繰り返してはいけないと発表を通して強く訴える事ができました。発表を終えた後、オーストラリア大使館の方から直接「ありがとう」と英語で伝えてもらい、国や使う言葉が違っても誰かの心に思いを届ける事ができ、とても感動しました。

私達中学生以外の方々のスピーチも聞かせていただき、核兵器はこの世に存在するべきではないという思いが深まりました。

こうして原爆によりたくさんの方の命が奪われましたが、勇気ある被爆者の方々のおかげで、生きている事に気づけました。

そして、私と同じように被爆者の方々やこの平和の集いを開いてくださったの方々のおかげでまた、誰かの心に、命をかけて私達に命を繋げてくださった人達がいたという事が響いて欲しいと心から思います。



## 感じたこと、伝えたいこと

人に対して、物に対して「自分には関係ない、他人事だ」と思わず、まず最初にその事としっかり向き合う必要があるんだと気づく事ができました。私も原爆を他人事のように感じていましたが、知れば知るほど原爆を近くに感じました。だから先入観だけで全てを決めつけるべきではないと思いました。

最後に、もう二度と同じ過ちを繰り返してはいけない、今のこの世の中をみんなで変えていきたいと心から思います。

# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：直江津東中学校 3年 古澤 周大

場 所	平和の集い
訪 問 日	令和5年8月11日（金） 午後5時00分～6時30分
事前に調べたこと	直江津にはかつて捕虜収容所がありました。そこでは寒さや過酷な労働など不衛生な環境でオーストラリア軍将兵60人の捕虜が亡くなり、虐待、死亡者を出したとして職員15人が有罪、うち8人が死亡判決を受け、処刑されました。そこで亡くなった兵士たちを追悼するために、この催しが行われています。

## 平和の集い

オーストラリアの大使館の方や、元オーストラリア捕虜だった方やその遺族と交流を続ける上越日豪協会の方など多くの方が集まり、行われました。平和の誓いでは、広島での活動を通して感じたことなどの発表をしてきました。



上越日豪協会の方の報告や、ゴスペルの発表、収容所の職員が処刑前夜に歌ったとされる「佐渡おけさ」の披露など、地元の方によって様々な発表が行われ、交流を深めました。



地元と関わりの深い小学校の生徒などが作った lanterns が会場に並べられました。「戦争がなくなりますように」などと書かれていて、会場で黙とうを捧げました。

## 感じたこと、伝えたいこと

平和の集いに参加して、地元の方の発表や小学生などによる lanterns などを見て、戦争や、この直江津の捕虜収容所で起こった出来事を次の世代に繋いでいきたいという思いを強く感じました。私も、今回のような平和の誓いなどを通して、色々な人にこの出来事を伝えていきたいです。



# 広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：事務局

内 容	上越市教育コラボ 2023 学び愛フェスタ ・派遣報告 ・平和への誓い
訪問日	令和5年11月18日（土） 午後2時～午後2時20分
場 所	高田城址公園オーレンプラザ 特設ステージ

## 広島平和記念式典中学生派遣事業報告会

(内容)

- 1 事業の説明
- 2 報告1（8月5日 1日目）
- 3 報告2（8月6日 2日目）
- 4 報告3（8月7日 3日目）
- 5 平和への誓い

### ～平和への誓い～

原爆はヒロシマの人たちのごく当たり前の生活を奪いました。二度と戦争を繰り返さないためにも、あらゆる世代の方々に戦争の記憶・記録を継承していき、次世代を担う私たちが平和の心を育てていきたいです。しかし、今世界で戦争が起きています。私たちは世界で起きている戦争や紛争にしっかりと目を向け、世界平和のために自分たちができることを考えていきます。そして私たちはそれぞれの違いを受け入れ、お互いに相手を尊重した発言、行動をとることが平和への第一歩となることを理解し、困っている人を助け、身近な人を大切にするなど、今の私たちにできることを精一杯やっていきます。

令和5年11月18日

直江津中等教育学校 熊谷 和起  
上越市立牧中学校 秋山 笑胡  
上越市立名立中学校 小林 亜瑚



## 感じたこと、伝えたいこと

生徒は自らの目で見えたこと、感じたことをスライドにまとめ、報告しました。今回の派遣事業を通して「世界中から多くの人々が（広島平和式典に）参加していることに驚くと同時に平和を願う心をつにしていけることが大切だと思いました。」「平和について真剣に考える時間となりました。」「自分で感じたことを言葉で表現することはとても難しかったです。自分たちでも講演会に行ったり、現地に行ったりしてほしいと感じました。」と感想を述べ、報告会を終えました。

# 非核平和友好都市宣言

私たちの上越市は、美しい自然のなかに歴史や文化の息づく、薫り高いまちです。この郷土を大切に守り、生きがいのある豊かな社会を築いていくことが、今の私たち市民に課せられた使命だと思えます。

私たちは、これを根底からゆるがし、人類の平和と地球環境を脅かす核兵器の使用・実験は容認できません。世界唯一の被爆国の国民として、すべての国のあらゆる核兵器がすみやかに廃絶され、恒久平和が確立されることを強く願うものです。

そのためにも私たちは、この上越市から姉妹都市や国際交流の輪を広げ、世界の人々と友好のきずなを強めながら、互いの繁栄を図っていきます。

私たちの上越市は、戦後50年の節目にあたり、平和を求める決意を新たにし、ここに「非核平和友好都市」とすることを宣言します。

平成7年12月20日

上越市